

生神女就寝祭 8月15日／8月28日

聖体礼儀

(眞福詞は、第一の規程の第三歌頌四句に、又第二の規程の第六歌頌四句に。)

トロパリ・コンダク

トロハリ



生神女よ 爾は産む時 童貞をまもれり 寝る時世界を
遺さざりき なんじ 生命の母として 生命に移れり
爾の 祈禱を以って 我等の 霊を死より 脱れしめ たまう
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世々に アミン

コンダク



祈禱に 寝むらざる 生神女 轉達^{てんたつ}に変わらざる希望 なるものを
ひつぎと 死とは 留めざりき 蓋^{けだし} 永貞童女の 胎^{たい}に
入りしものは 彼を生命の母として
生命に移したまえり

提綱、生神女の歌、第三調。

我が^{たましい}靈は主を^{あが}崇め、我が^わ神は神我が^{かみわ}救主を^{きゆうしゆ}悦^{よろこ}べり。句、蓋^{けだしそのひ}其婢の卑^{いや}しきを^{かえり}顧^{いま}みたり、今より^{のちぼんせいわれ}後萬世我を^{さいわい}福^いなりと謂はん。



句、蓋其婢の卑しきを顧みたり、今より後萬世我を福なりと謂はん。

使徒の誦讀はフィリッピ書二百四十端。

兄弟よ、爾等はハリストスイススの意を以て意とすべし。彼は神の像にして、神と匹しくなることを僭ふとせざりき、然れども己を虚しくして、僕の貌を受け、人と同じき者と為りて、外形に於て人の如くなり、己を卑くして、死に至るまで順ひ、且十字架の死に至れり。故に神も彼を無上に高くして、彼に凡の名に超ゆる名を賜へり、凡そ天に在り、地に在り、及び地の下に在る者の膝は、イイススの名の前に屈み、且凡の舌は、イイススハリストスが主たるを承け認めて、光榮を神父に帰せん為なり。

「ア ril イヤ」、第二調、

主よ、爾^{なんじおよ}及び爾^{なんじ}が能^{のうりよく}力の^{ひつ}置は爾^{なんじ}が^{あんそく}安息の^{ところ}所^たに^た立てよ。句、主は^{しゆ}眞^{しん}實^{じつ}を^{もつ}以て^{ちか}ダ^{これ}ウ^{そむ}ィ^わドに^{ちか}誓^{これ}ひて、之^{これ}に^{そむ}背^わか^わざらん。

2調



福音經の誦讀はルカ五十四端。

彼の時イイスス一の村に入りしに、或婦マルファと名づくる者、彼を其家に迎へたり。其姉妹にマリヤと名づくる者あり、イイススの足下に坐して、其言を聴けり。マルファは供事の多きに因りて、心を煩はし、就きて曰へり、主よ、我が姉妹我一人を遣して供事せしむるを爾意と為さざるか、之に命じて、我を助けしめよ。イイスス彼に答へて曰へり、マルファよ、マルファよ、爾は多くの事を慮りて心を勞せり、然れども需むる所は一のみ。マリヤは善き分を択びたり、是は彼より奪ふ可からず。此を言ふ時、一の婦民の中より聲を揚げて、彼に謂へり、爾を孕みし腹と爾が哺ひし乳とは福なり。彼は曰へり、然り、神の言を聴きて之を守る者は福なり。

「常に福にして」に代へて

附唱

われ 我等万族 爾 唯一の 生神女を 讃め 揚ぐ

第9歌頌

いさぎよ 潔き童貞女よ、天然の法は 爾に於いて勝たれたり

童貞は 産む時に まもられ 生命は死に 配偶せらる

生神女よなんじ 産む後には 童貞女

死する後には 生ける者として 常に爾の 嗣業を

すくい たまう

領聖詞、115聖詠

我救いの爵を受けて、主の名を籲ばん。「アレルイヤ」。三次。

領聖詞 115聖詠 4

Sergey Glagorev

① 単音

我救いの爵を受けて、主の名一を呼ばん

① 二部

我救いの爵を受けて、主の名一を呼ばん

アレルーヤ アレルヤ アレルーイヤ

Ἡ ΚΟΙΜΗΣΙΣ ΤΗΣ ΘΕΟΤΟΚΟΥ

